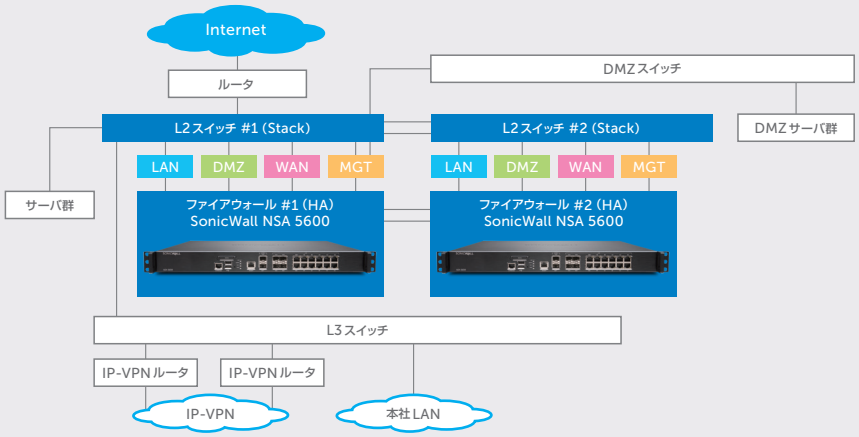
高機能でパフォーマンスの高いUTMを導入し通信状況の可視化でセキュリティ強化を実現

ぺんてるでは、従来型FWではなく、セキュリティ強化のためのUTM製品として SonicWall® NSA 5600を冗長構成で導入。さまざまな通信を可視化することによって、インシデント対策や情報漏えい対策に役立てている。

ネットワーク物理構成



ぺんてる株式会社
財務本部 情報システム部
システム二課 課長
松川 満 氏

ぺんてる株式会社
財務本部 情報システム部
部長
石原 良祐 氏

ぺんてる株式会社
財務本部 情報システム部
システム二課
植西 隆明 氏

「セキュリティ強化のためにUTM導入は必要不可欠と考え、豊富な機能で、冗長構成でもライセンス料が安価なSonicWall NSA 5600を導入しました。通信を可視化し分析することで、今後のセキュリティ対策やインシデントへの迅速な対応を実現できると考えています」

ぺんてる株式会社
財務本部 情報システム部
部長
石原 良祐 氏

カスタマー・プロファイル

Discover the best Pentel®

企業名: ぺんてる株式会社
業 種: 製造販売業
所在国: 日本
従業員数: 約700名
Webサイト: http://www.pentel.co.jp/

課 題

従来から利用してきたファイアーウォールの入れ替え時期を迎えていたぺんてるでは、セキュリティ強化のため、総合脅威管理(UTM)製品の導入が必須と考え、高機能でありながら、コストを抑えて冗長構成できる製品を求めていた。

ソリューション

複数のUTM製品の中から、冗長構成にしても単一構成分のライセンス料のみで済むSonicWall NSA 5600を2台導入し、これまで見えなかった脅威やインシデントの可視化を実現。Analyzerを活用して今後のセキュリティ向上を目指す。

導入効果

- 社内の通信状況を可視化することで、今後のアプリケーション制御に役立てる。
- 外部からの脅威を可視化し分析することによって、インシデント対策を迅速に行えるようにする。
- マルチコアアーキテクチャなどの機能でCPU使用率を10%に、セッション数を2%に抑えることができ、今後インターネット利用が増加しても余裕を持って運用できる。

ソリューションエリア

- 次世代ファイアウォール

従来型FWではなく UTMの導入でセキュリティ強化を狙う

総合文具メーカーのぺんてる株式会社（以下、ぺんてる）は、1946年設立。2016年には70周年を迎え、0.2mmの超極細な芯でも折れにくいシャープペンシル「オレンズ」など、数々のヒット商品を生み出してきた。また、スマートフォンなどのデバイスを活用した電子文具の開発も行い、ペンマーカーとスマートフォンアプリを使った「アンキスナップ」（AnkiSnap）などの商品も提供している。

「ぺんてるでは、海外展開を積極的に行っており、グローバルSCMなどの海外の在庫や製品を連結で可視化できるシステムなども導入してきました」と話す、ぺんてる株式会社 財務本部 情報システム部 部長の石原良祐氏。IT導入を特定のSIerやメーカー、パートナーに任せず、要件にマッチした物を総合的に判断して、その都度選定してきたと説明する。

ぺんてるは、2016年7月にファイアーウォール（以下、FW）の入れ替え時期を迎えていた。さまざまな企業・団体の情報漏えい事件が発生する中で、導入機器は従来型のFWではなく、UTM製品が必要であると判断し、これまで見えていなかったどのようなアプリケーションが通信を行っているのかをUTMで可視化することで情報漏えいのリスクを低減させることを検討していた。

低いライセンスコストと豊富な機能で SonicWallを採用

「3社のUTM製品の評価機を借りて検証を行い、評価表を作って各項目に点数を付けていきました」と話す、ぺんてる株式会社 財務本部 情報システム部 システム二課 課長の松川満氏は、コスト面と豊富なUTM機能でSonicWall NSA 5600が優位であったことを明かす。業務でクラウドサービスなども利用する中で、インターネットのダウンタイムを抑えるためにUTMを冗長構成で導入するには、ライセンス料が二重にかかるが、SonicWall NSA 5600は1台のライセンス料で2台導入できる点が決め手になったという。「結果的に、他社の7割のコストで導入することができました。以前のFWの導入コストの40%増しで高機能なUTMを導入できたので、コスト的にも非常に満足しています」と松川 氏は話す。

また、ぺんてる株式会社 財務本部 情報システム部 システム二課の植西隆明氏は、次のように話す。「カタログスペックが高くても、実際にはパフォーマンスが低いと評価されている製品もありました。情報収集や評価機を検証する中で、管理画面の使いやすさなども含めて複合的に判断してSonicWallを採用しました。質問などのレスポンスが早く、個別にハンズオンを開いて機能をわかりやすく把握できたことや、面倒な移行作業も含めて構築してくれるという点も安心できました」。

実際の移行は非常にスムーズで、数時間の作業で行えたと松川氏は話す。「土曜日に移行作業を行い、午前中だけで作業を終えることができました。稼動後は、大きな問題はなく、翌週の月曜日も定時に帰ることができましたね」。

通信を可視化することで セキュリティを強化

導入後は、「UTMの機能をすべて有効にすると、パフォーマンスが落ちるという懸念がありましたが、パフォーマンスが落ちた場合の対処方法なども事前に教えてもらったので安心できました。実際には、すべての機能を有効にしてもパフォーマンスが落ちることなく、安定して稼動しています」と植西氏が話すように、SonicWall NSA 5600のパフォーマンスに非常に満足しているという。現在は、マルチコアアーキテクチャで分散することによってCPU使用率を10%程度に抑え、セッション数も2%程度しか使っていないため、今後、業務で利用するクラウドサービスなどが増えていっても余裕を持って運用することが可能となる。

一方、SonicWall NSA 5600を導入することでさまざまな脅威に気づかされたと松川氏は説明する。「調査すると、海外から無作為にIPを叩いていくポートスキャンなどが非常に多いことがわかりました。まだ、大きなインシデントは起きていませんが、予算が付きにくいセキュリティ対策の強化を経営陣に提案する場合や、今後のインシデント対策にも、これらの情報を役立てていきたいですね」。

SonicWall NSA 5600のAnalyzerを使うことによって、インシデントなどをドリルダウンして細かく分析でき、粒度の細かなレポートを簡単に作成することも可能だ。ぺんてるでは、週次でレポートを作成して蓄積することによってヒストリカルな分析・調査を行い、経営陣への報告やセキュリティ強化に役立てて、万が一の大きなインシデントの際に迅速に対応できるようにしているという。

「内部からの通信を可視化することによって、オンラインストレージの利用が多いことがわかってきました。また、チャットの利用が多いことも、これまではわからなかったことです」と植西氏。今後は、これらのデータを収集し、アプリケーションの制御や自社のオンラインストレージを利用するようにエンドユーザーを誘導し、情報漏えいのリスクを防ぐ予定だ。

「デバイスやクラウドで社内と社外の垣根をなくすには、どこまでブロックして、どこまでを許可するかをしっかり行うことが重要となってきます。SonicWallは、将来のワークスタイル変革なども見越した我々のIT基盤に必須のものとなることは間違いありません」と松川氏は話す。

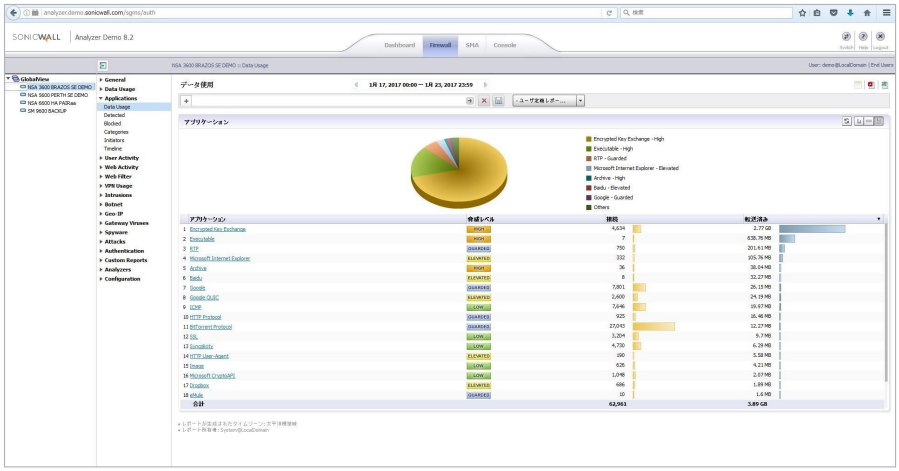
最後に石原氏は、「どんどん新たな脅威が生まれる中で、我々はSonicWall NSA 5600を導入して終わりではなく、今後もさまざまな対策を考える必要があります。標的型攻撃が多くなってきていますが、クラウド型サンドボックスサービスであるSonicWall Captureに非常に期待しています。ぜひ試してみて、有効であるなら導入を検討したいですね」。

今後も、ぺんてるではIT基盤のセキュリティを強化し、さまざまなヒット商品を生み出して、グローバルに活躍していく。

導入システム

ハードウェア

SonicWall NSA 5600



監視・レポートツール「Analyzer」による画面例　※実際のお客様環境のものではありません。

ユーザ導入事例ウェブサイトにて、他にも多くの事例をご覧いただけます。www.sonicwall.com/jp-ja/customer-stories/